

# 南九州の

# 古道

Kodo of Southern Kyushu

7世紀後半、中央集権的な律令体制を目指す古代国家は、白村江の敗戦以後、都周辺の五畿から放射状に、全国の各国府を直線的に結び七道と呼ばれる官道を、整備します。東海道・北陸道・山陰道・山陽道等の古代官道に由来する広域地名は、現在も継承されています。南九州では、まだまだ不明な点が多い古代の道を探す手がかりを紹介します。

## 第1章 古代の道

律令の規定では約16km毎に駅家を設置し、駅に配置された駅馬を乗り継いで緊急連絡に対応します。大宰府-平安京間(大路)には58駅が設置され、駅間距離10.5kmと充実しています。当時の規定では、この区間を徒歩では14日で移動することになります。奈良時代の反乱では大宰府-平城京間を4日で連絡しており、駅制を利用したことが窺われます。

## 第2章 南九州の官道

九州地方は西海道と呼ばれ、平安時代には全国の駅の1/4が集中しました。大宰府-筑後国府-肥後国府-薩摩国府を結ぶ西海道西路、大宰府-豊後国府-日向国府-大隅国府を結ぶ西海道東路、肥後国葦北郡佐職駅-日向国諸県郡-日向国府を結ぶ肥後・日向連絡路の三つの官道が南九州を巡っていました。県内では、薩摩国府と大隅国府を結ぶ蒲生駅付近の駅路跡が見つかっています。

## 第3章 出土遺物分布から探る道

国府の役所「厨」に関する厨墨書土器が薩摩半島各地から出土するほか、薩摩半島の赤色土器、大隅半島北部の焼塩土器、古代菱刈郡を中心に広がる赤色高台付黒色土師器等の分布から、文献史料に見えないながらも、国府と郡衙(郡の役所)等を結ぶ古代の交通路の存在が指摘されています。

## 第4章 古代交通路のその後

維持管理に莫大な労力を要する古代官道は平安時代中頃から廃れますが、その経路は中世以降も主要な交通路として継承された可能性があります。鎌倉時代以降の常滑焼の分布や、中世城館の立地、中近世牧の分布等は、江戸時代の街道や現在の国道・県道等の主要交通路沿線にみられます。

2022  
8/30 TUE  
▼  
11/20 SUN

黎明館3階 企画展示室

学芸講座 (展示解説関連講座)

「南九州の古道」

日時 9月11日 [日]  
13:30~15:00  
講師 黎明館主任学芸専門員  
上村 俊洋  
会場 黎明館3階 講座室

※ 学芸講座は、事前申込制です。  
申込方法の詳細は、ホームページ  
またはチラシをご覧ください。  
※ 講座後の展示解説はありません。

展示解説

日時 9月3日 [土]  
10月23日 [日]  
11月12日 [土]  
いずれも13:30~14:10  
会場 黎明館3階 企画展示室

※ 要入館料、事前申込不要

